

病院名:平成記念病院 医療圏:中和

※R7年度、R8年度(2026年度)の列は、今年度の病床機能報告及び様式2の数値を記入してください。

			(a) ＜H28年度＞ 許可病床数	＜R7年度＞ 許可病床数	うち、最大使用 病床数 (注1)
一般病床・療養病床	高度急性期				
	急性期	重症	180床	180床	178床
		軽症			
	回復期		120床	120床	120床
	慢性期				
	休棟中 (今後再開する予定)				
	休棟中 (今後廃止する予定)				
	(合計)(自動計算)		300床	300床	298床
精神病床					
結核病床					
感染症病床					
介護医療院					



(b) 将来 (R8/2026年度) 病床数	(b-a) H28年度からの 増減 (自動計算)
	0床
180床	0床
	0床
120床	0床
	0床
	0床
	0床
300床	0床
	0床
	0床
	0床
	0床

1日平均 在院患者数(注2)	
1日平均 外来患者数(注3)	

(注1)最大使用病床数  
・1年間(R6.4.1～R7.3.31)に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

# 令和7年度 地域医療構想における具体的対応方針

## 1. 基本情報

病院名：平成記念病院

医療圏：中和

## 2. 地域医療構想の実現に向けた自院の取組について

（１）これまでの地域医療構想や昨今の受領動向の変化、2040年頃を見据えた新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、自院が地域で担う役割等について（現状と今後の方向性）

1. 急性期＜重症急性期＞（１８０床）回復期（１２０床：内訳 回復期リハビリ病床９０床・地域包括ケア病床３０床）を維持・運営します。

2. 当院の特色である救急医療（２．５次迄に対応する）については、圏域外受入も含め今後も対応します。奈良県立医科大学附属病院とのER、さらに中和医療圏における重症腹症ネットワークグループと連携して対応していきます。

3. 他病院での対応について

泌尿器科の患者については今後も平尾病院での対応を、急性冠動脈疾患の救急対応については、奈良医大、大和橿原病院での対応をお願いしております。

なお、平尾病院・大和橿原病院とは橿原市二次救急医療連絡会事務部会にて合意を得ています。

## （２）今後、増加が見込まれる高齢者救急への対応について

橿原市周辺を中心として介護施設等との救急医療に関する協力医療機関としての協定を行って、施設とのカンファレンスを行い情報交換をしています。

今後は超高齢社会で高齢者患者が増加する中で、専門家・専門分野に分かれた現在の対応では限界がある。多発疾患を持つ高齢者に対応できるチーム医療やグループでの連携（病院間で協力して診る仕組み）が必要と感じている。

また、身寄りのない患者や情報がない患者の受け入れについて、特に夜間帯であれば、病院だけで対応できないケースもあり、行政との連携や、今後はマイナンバーカードなどを活用した情報共有（ケアマネ情報、介護情報など）の仕組みが必要ではないかと考えます。

熱発などでの早期搬送が多く、在宅・施設側で「この状態で搬送すべきか」の判断が難しいケースや、情報共有不足による二度手間（家族からの情報不足や施設・訪問看護ステーション等に再度確認が必要など）が発生するケースがあり、救急搬送が必要な状態かどうかの判断と正確な情報把握ができる体制も必要と考えます。

## （３）今後、増加が見込まれる在宅医療需要への対応について

※提供体制強化や体制整備の予定等ありましたら合わせてご記載ください

引き続き、在宅医との連携を強化し、「断らない病院」「面倒見のいい病院」の強化を行っていきます。

## （４）今後の医療従事者の確保や医療提供の維持に向けた方策、検討の状況について

※医療DX、タスクシフト・シェア等の取組状況がありましたら合わせてご記載ください

電子カルテの更新を控えており、医療DX、タスクシフト・シェアも進めていきたいと考えている。

### 3. 各領域の対応状況について

※以下[1]～[15]の領域の今後の方向性について記入してください。  
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

#### [1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[1-2]手術の実施

消化器;乳腺;骨軟部

[1-3]化学療法の実施

実施している

[1-4]放射線治療の実施

実施していない

[1-5]拠点病院等の指定

指定されていない

#### [1-6]特記事項

日本人の最大死因である悪性新生物は、胃・大腸・肝臓など消化器悪性疾患と一括りにすると、消化器がんが最も多くを占め、消化器内科はその窓口として重要な役割を果たしております。当院では施行していない遺伝子パネルによる個別化学療法や放射線治療などの末期癌患者治療への対応も重要ですが、早期発見はさらに重要で、消化器悪性疾患は早期診断による根治治療が可能であり、検診などの充実が望まれております。当院では、2022年5月、新たに健診・内視鏡センターを開設したので、さらなる健診・検診の拡大、病診連携を図ります。

悪性新生物の中で最も多い肺癌について、奈良県のDPCコードにおける当院の肺癌患者数は天理よろづ相談所病院、奈良医大、奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院と肩を並べ常に県内上位5病院に入っております。しかし、県の推奨する「面倒見のいい病院」を実践し、奈良医大や天理よろづ病院などと連携し入院の必要な重症患者は主に当院で積極的に受け入れ、化学療法などを施行しているため、肺癌患者の平均在院日数が長くなり、今後の検討課題となっております。

## [2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

—

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

—

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

—

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

—

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

—

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

—

[2-8]大動脈瘤手術の実施

—

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

—

[2-10]特記事項

現在当院の循環器内科医は非常勤のみの為、急性冠動脈疾患への対応は困難ですが、心臓カテーテルなどが必要のない心不全などの心疾患に対しては既に対応しております。高齢者に多い心血管疾患について、常に専門医に相談できるような体制をさらに充実させるべく調整を続けております。

### [3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

実施している

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

実施していない

[3-4]脳出血(くも膜下出血を含む)への対応

対応している

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

実施している

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

実施していない

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

実施している

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

実施している

[3-9]特記事項

奈良医大と連携し、t-PAによる脳血栓溶解療法から早期リハビリ、退院後の在宅リハビリまで、幅広く急性期～慢性期の脳卒中に対して対応しています。

#### [4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

受けている

[4-3]大腿骨骨折への対応

対応している

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加していない

[4-6]特記事項

当院は、救急において社会医療法人の認定を受けており今後も救急医療に重点をおき継続的に良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制の確保に努めております。

大腿骨骨折手術は年間150－160例前後実施しておりますが、その他外傷や救急疾患に対しても、「断らない病院」を目指します。

## [5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[5-2]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

有リ

[5-3]上記が有りの場合、届出病床数

90

[5-4]訪問リハビリの実施

実施している

[5-5]通所リハビリの実施

実施していない

[5-6]今後の方向性

リハビリを通して入院時より多職種連携のもと情報共有し、病病連携・退院支援・在院日数の短縮を図っております。

リハビリ依頼当日から開始し、退院日当日まで機能回復、日常生活動作の改善に努めています。引き続き早期よりの365日リハビリを提供し、充実した単位提供（リハ実施）を行っております。そして回復期リハビリ病棟や訪問リハビリに向けてのリハビリフォローを構築すべく調整しております。



## [6]在宅医療

### [6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

対応していない

### [6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

無し

### [6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

無し

### [6-4]特記事項

—

## [7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

対応していない

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

ない

[7-3]上記でありの場合、その名称

[7-4]特記事項

—

## [8]ACP（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）について  
定めている

[8-2]特記事項

厚生労働省「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」、「適切な意思決定支援に関する指針」（「適切な看取りに対する指針」）に基づき、本人もしくは家族と、主治医・看護師・関連するスタッフとの繰り返し話し合いの機会を設定しております。特に、在宅看取りを希望され自宅退院される場合は、本人・家族を中心に、在宅主治医、訪問看護師・スタッフ・ケアマネージャーなど関わる全ての職種と退院カンファレンスを開き、話し合いの場を設けています。

## [9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[9-2]小児入院医療管理料の算定

—

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

—

[9-4]医療的ケア児を受け入れている

—

[9-5]特記事項

—

## [10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[10-2]分娩の取扱い

—

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

—

[10-4]特記事項

—

## [11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-3]DMAT指定病院の指定を受けているか？

受けていない

[11-4]EMIS（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]特記事項

令和7年8月 広域災害救急医療情報システム(EMIS)の操作説明会に毎年参加。

令和8年2月 災害医療訓練（サイバーテロを想定）を実施予定

## [12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

対応していない

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

—

[12-3]特記事項

—

**[13]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）**

[13-1]当該領域について対応しているか？

対応している

[13-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

受けていない

[13-4]臨床研修協力施設であるか？

該当する

[13-5]専門研修の基幹施設であるか？

該当しない

[13-6]専門研修の連携施設であるか？

該当する

[13-7]特記事項

内科：奈良県立医科大学付属病院の臨床研修協力施設として研修医の受入・教育を行っており、医学生を受入も行っております。さらに、消化器・消化器内視鏡・肝臓学会の各教育指導認定施設となっており、常勤の後期研修医を含めた若手医師の研修・教育に関しても十分な役割を果たし、当院での研修による各学会認定専門医育成の一助を担っております。

整形外科：奈良県立医科大学付属病院と連携し医学生や研修医を受入、指導にあたっております。

さらに日本整形外科学会研修施設となっており、若手医師の研修・教育をおこなっています。

消化器乳腺外科：日本外科学会外科専門医制度関連施設を取得し、若手医師の研修・教育を行っております。臨床研修指導医講習に参加し、今後臨床研修医受入に対応予定です。

脳神経内科：日本神経学会教育施設、日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本認知症学会教育施設であり、若手医師の研修・教育を行っております。

脳神経外科：日本脳神経外科学会専門医訓練施設であり、若手医師の研修・教育を行っております。

歯科口腔外科：日本口腔外科学会認定准研修施設、日本顎顔面インプラント学会准研修施設であり、若手歯科医師の研修・教育を行っております。

## [14]医師の働き方改革

### [14-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

### [14-2]上記で一部の場合、その範囲

取得済み

### [14-3]特記事項

令和5年2月に断続的な宿直、または、日直勤務許可を内科系と外科系で取得し、この許可に基づき適切に取り組んでいる。

## [15]看護職員の研修機能

### [15-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

### [15-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ある

### [15-3]特記事項

現在、奈良県立医科大学の協力施設として「看護師特定行為研修 慢性期・在宅コース 特定行為区分：栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」の実習を受け入れている。  
今後、当院で実習が可能な項目は特定行為区分を増やせるように各科の医師（指導医）と検討を行っていく予定である。